こまえ平和フェスタ 2019 を終えて

こまえ平和フェスタ 2019 実行委員会

2019年8月 18日（日）、狛江エコルマホールにて開催された「こまえ平和フェスタ 2019」（第 15回）には、５００名を超える方々にご来場いただき、９２名の出演者で舞台企画が取り組まれ、ホワイエでは多くの市民参加による充実した展示等が行なわれました。展示は事前に中央公民館のショーケースで、事後は西河原公民館ギャラリーでも実施され、多くの市民の方に観賞していただきました。

今年のテーマは「沖縄に心をよせて～平和な未来を子どもたちに～」です。

沖縄の辺野古基地建設をめぐり、県民は県知事選をはじめ数度の選挙で建設 NO の意思を示してきました。今年の２月には直接、基地建設を問う県民投票が実施され、有効投票の７割を超える県民が反対の意思表示をしました。しかし、政府は建設地点の砂利投入を続け、沖縄県とこの問題で話し合おうとしていません。こうした状況の中で沖縄の人々の想いを、その歴史を、少しでも知ろうと企画しました。沖縄は先の大戦で唯一地上戦が戦われ、県民の４人に一人が亡くなる凄惨な体験をしています。狛江市平和都市宣言を掲げ、「戦争の放棄、交戦権の否認」を行動原理に掲げた狛江市民として無関心ではいられません。

今年も情報保障として手話通訳と文字通訳を行ない、さらに「沖縄のやさしい歴史と文化」の音訳 CD の作成、合唱歌詞の点訳などを実施、保育も行いました。引き続き実施予定です。

ご来場いただいた市民のみなさん、そして賛同広告や事前協賛金など物心両面でご協力いただいたみなさんの平和への想いを支えに、こまえ平和フェスタを成功裏に終えることができました。深く御礼申し上げます。今年は会計規模が少し大きくなりましたが、収入も増え、この３年間、単年度収支でほぼ採算が取れるようになりました。本当にありがとうございました。市民手作りの平和フェスタを継続し、狛江市の平和文化の一端を担っていきたいと思います。

来年の平和フェスタは 2020年８月１６日（日）を予定しています。なお、「こまえ平和フェスタ 2019」の詳細は（http://komae-heiwa-fes.clean.to/）をご覧ください。

かぎやで風節（かじゃでふうぶし）

開幕は琉球舞踊です。沖縄本島で祝宴の座開きとして踊られ、「今日の喜びを何に例えることができましょう。まるで蕾の花が朝露を受けて、ぱっと咲き開いたような心持ちです。」と、踊られるそうです。狛江を拠点に広く活動している琉球舞踊の「はいさい」さんに４年ぶりに出演をお願いしました。

司会　中野さやかさん。

昨年に続いての司会です。歴史研究が専門の先生で、二児の母親という忙しいなかで、引き受けていただきました。

佐久間均実行委員長のあいさつ（概略。以下同じ）

８月は特別な時期。一つはお盆。一つは終戦記念日。沖縄の悲惨な地上戦、２回に渡る原爆投下、東京大空襲など戦災により、おびただしい方が亡くなりました。これらの方はご先祖様とともに、終戦を歴史的な節目、平和国家を目指していく第一歩として応援していると思います。今日は「沖縄に心をよせて」というテーマ。日本から多くの犠牲を強いられ、今も強いられ続けている沖縄に心をよせるきっかけになれば幸いです。

松原俊雄狛江市長のあいさつ

こまえ平和フェスタは職員でいた頃から市民の皆さんと続けていて、今も継続していることが嬉しいです。TV を見ていたら、フィリピンの残留日本人の妻で旦那さんは日本に強制送還、74 年経つと奥さんも亡くなり、残された子どもがいる。こうした当時の子どもが 3500 人いる中で、2500 人が日本国籍の復権を望んでいる。政府として早めの対応が必要。世界の戦争、国内の悲惨な事故、事件に、狛江市から平和を発信していきます。

石井功狛江市議会議長のメッセージ

「こまえ平和フェスタ２０１９」が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。今年もこの「平和フェスタ」が、「平和の尊さ」について考え、「語り継ぐことの大切さ」や「今の平和を享受できる幸せ」を再確認する有意義な機会になることを願っています。市議会といたしましても、「平和都市宣言」の精神を尊重し、平和で安全なまちづくりのために最大限の努力をしていきます。

狛江市平和都市宣言朗読劇

今年の出演者は若者４名。初出演で狛江在住の**大政晶子**さん、連続して出演している**冨田翔**さん、二度目の出演で俳優の**片山絵里**さん、初出演で全く経験のなかった**嶋田玲**さんです。脚本・演出は二階堂まり副実行委員長です。

故翁長前沖縄県知事が「憲法の上に日米地位協定があり、国会の上に日米合同委員会がある」と指摘していたことに触れ、非公開・密室の日米合同委員会の合意が「日米両政府を拘束する」。地位協定の実態は不平等で、例えばオスプレイなど米軍機は本国でも沖縄でも米国住宅の上は飛ばないが、日本人の住宅の上は平気で飛んでいることや、事故を起こしても日本が立ち入れない、米軍関係者が例え日本で殺人・強姦などを犯しても、日本の法律で事実上裁けないことなどが沖縄を事例に語られました。ドイツやイタリアは基地内でも自国の法令が適用され、警察も立ち入れること、米軍の飛行訓練なども自国の航空法の規定に基づき自国が航空管制をしているが、日本では横田空域と呼ばれる１都９県を含む広大な地域を米軍横田基地が管理しているなど、植民地さながらの状態にあることが語られました。核兵器禁止条約について、批准国が成立要件の半分 25 カ国になったことなど、その後の進展に触れていました。

「祖父と沖縄戦～子どもから大人まで共に考える戦争と平和」　牛島貞満さん

牛島貞満さんは 10 年前に狛江第一小学校で教えていた元教師です。祖父は先の大戦で唯一地上戦となった沖縄の日本軍（32 軍）司令官牛島満中将です。「立派なおじいちゃん」と聞かされて育ちましたが、その評価に子どもの頃から抵抗を感じ、中学の時に靖国神社に参拝しなくなったそうです。初めて沖縄に行ったのは 1994 年、41 歳の時。その時から祖父の足跡を調べ

始め、2004 年からは「牛島満と沖縄戦」をテーマに小学生から高校生に向けて授業をしています。お話は次の通りです。

沖縄戦はわずか 6 カ月の戦争で 20 万人が亡くなった。その特徴は兵士より住民が多く亡くなったことだ。なぜ、こんなに多くの住民が死んだのか考えたい。

沖縄戦は大本営から持久戦を命ぜられていて、本土決戦（長野県松代市に天皇・政府機関を移設等）のための時間稼ぎ。戦力は兵隊の数で比べても 54 万人と 11 万人、５：１で圧倒的に米軍有利。沖縄戦は米軍の切れ目のない砲弾のすさまじさから「鉄の暴風雨」として知られている（砲弾のかけらを示す)。米軍は 1945 年４月１日に沖縄本島に上陸、上陸時は抵抗しなかった。上陸後、占領された飛行場を「奪い返せ」との命令が出て、首里城地下の司令部壕を拠点に激しい戦闘、死者は米軍 5 千名、日本軍 6 万 4 千名。残りの兵力は米軍 53 万 5 千、日本軍 4 万 6 千。

ここで、南部撤退したことが住民を巻き込み、多数の住民の死者を出した。もし、首里城で戦い続けるならば、玉砕という形になったにせよ、これほどの住民の被害を出さないで済んだであろう。さらに、牛島司令官は 6 月 18 日「最後まで敢闘し、悠久の大義に生くべし」（天皇のために最後の一人まで戦え）との命令を出し、6 月 22 日に自決してしまう。この結果は司令官不在となり終結を決定できず、終戦後の 9 月 5 日までゲリラ戦が続き、多大な人命を失わせることになった。終わりなき沖縄戦が作られた。これは牛島満の判断です。やさしい人といわれているが戦争は人を変える。戦争体験者の話からも、守ってくれるはずの軍隊は住民を守らなかった。軍隊は住民を壕から追い出し、砲弾の嵐にさらし、軍の都合で住民を死に追いやる。国と国との意見の相違は知恵で、対話で解決すべきだというのが沖縄戦の教訓です。

「琉球舞踊のお話し」　高山正樹さん

開幕の踊り「かぎやで風節」は琉球王朝時代に創られ、何かあると最初に披露される曲で、踊り奉行という役人がやっていた。三線も踊りもみんな男性だが、琉球処分で日本に併合されたときに、職を失い、下野して、遊女に三線や踊りを教えた。高貴な芸能であるとともに卑しい遊びでもあった。

下野した人たちが「雑（ぞう）踊り」という新しい踊りを創作。いわゆる民衆の絣を着て踊る。今から踊る「太鼓囃子」は 20～30 年前に宇根伸三郎さんという先生が創った曲で、1 対 1 で踊るが、大きな舞台で踊るときは何組かで全く同じ振りで踊る。今回は最初と最後だけ一組だけ振りを変えてみた。失礼かもしれないが、沖縄の芸能というのは新しいものをどんどん取り入れて、ごちゃまぜにしてどんどんと新しいことに挑戦する芸能です。ご覧ください。

「愛と平和と希望と笑顔への道」　ユキヒロライブ

歌とトークの楽しい 45 分でした。ユキヒロ（仲里幸広）さんは沖縄出身のシンガーソングライターで、沖縄・東京を中心に全国でライブ活動を展開、ライブの後に市民公募による平和フェスタ合唱団と歌う「HEIWA の鐘」「今日から明日へ」は全国の音楽の教科書に採用され、100 を超える学校コンサートに出向き、子どもたちの夢を育てています。

歌は「負けないで行こう」、「大好きな沖縄（ウチナ―)」、「広島へ」、「限りある時間」、「琉球」（作詞・作曲はいずれも仲里幸広。「大好きな沖縄」の作詞のみ嘉手苅智）の 5 曲。

トークが上手で最初の一声で「すごく温かい狛江市の皆さんの、合わない手拍子、本当にありがとうございました（爆笑）。最高ですね。」の後で、平和フェスタの内容に感謝を表明し、「ユキヒロ―」とコールさせた後、「この瞬間から皆さんとは友だち。連帯保証人になって良いぐらいの（笑）大親友！」

床の間に飾るのは三線（日本は刀）というほど、沖縄は音楽が生活に根差している文化で、沖縄戦後の捕虜収容所で手に入る材料でカンカラ三線を作って、悲しいけど歌おうと励まし合ったことなどが話されました。浦添市出身で宜野湾市と隣接、普天間のヘリが飛ぶと電磁波でテレビが写らないと訴え、「沖縄から戦争に加担する、戦争のための基地はいらない。それは沖縄だけでなく、日本全国、世界にもいらない。その模範となるのが沖縄で、沖縄にはそういう課題がある。沖縄の平和の心と狛江のこの会場の皆さんと一つになって平和の心を広げていきましょう！！」と「琉球」を熱唱しました。

平和フェスタ合唱団、ユキヒロさんと歌う　指揮：大熊 啓　　ピアノ：杉本顕子
「今日から明日へ」　「HEIWA の鐘」

全員合唱「水と緑のまち」。その後は豊年音頭の流れる中、舞台でカチャーシーを、さらに沖縄調の「水と緑のまち」で観客席の来場者と一緒に踊りました。

ホワイエでは展示と平和図書コーナー、折鶴コーナー、「沖縄こどもの未来県民会議」寄付の沖縄物産販売、KOPPIE の皆さんによる東日本大震災支援「たいのぼり」販売、そしてユキヒロさんのアルバム「琉球」のサインセールをしました。

展示は
○沖縄（琉球）のやさしい歴史と文化　○沖縄のいま、東京の米軍基地　○ちょんまげ隊の被災地支援活動　○福島原発事故被災地（者）の状況　○フリースクール KOPPIE による平和を願う貼り絵　○公募による川柳・俳句・絵手紙　○核兵器禁止条約と原爆写真、空襲の記録　○紙芝居「戦争と狛江の子ども達」より

7 月後半に中央公民館 2 階ショーケースで、8 月 19～27 日に西河原公民館ギャラリーで展示。

こまえ平和フェスタ 2019 実行委員会発行
http://komae-heiwa-fes.clean.to/
mail@komae-heiwa-fes.clean.to